

計画掲載コラム一覧

コラムNo.	基本方針	タイトル	ページ
1	墨田区のがんを取り巻く現状	がん（悪性腫瘍）とは	16
2		ロジックモデル	35
3	がん予防（一次予防）	加熱式たばこと電子たばこ	42
4		改正健康増進法と東京都受動喫煙防止条例	43
5		飲酒はほどほどに…	59
6		食生活を見直す	60
7		身体を動かす	61
8	がん予防（二次予防）	新たなプロセス指標の基準値	80
9		がん検診精密検査受診率向上の取組み	89
10		ナッジ理論の活用	96
11		がん検診事業の安定的運営	98
12	がんとの共生	がん治療における口腔ケアについて	104
13		がんの医療体制と在宅療養を支えるネットワーク	109
14		ACP（人生会議）について	111
15		仕事とがん治療の両立について	114
16		地域包括ケアシステム・地域共生社会の中での、がんの支援について	115
17	基盤の整備	ブレスト・アウェアネスとは	122
18		墨田区版健康経営事業	129
19		がん登録について	132
20		がん検診の感度・特異度	133

がん（悪性腫瘍）とは

がんは、私たちの体の臓器や組織など、どこにでもできる可能性があるもので、正常な細胞の遺伝子から何等かの原因で作り出されたがん細胞が増殖して起こる病気です。

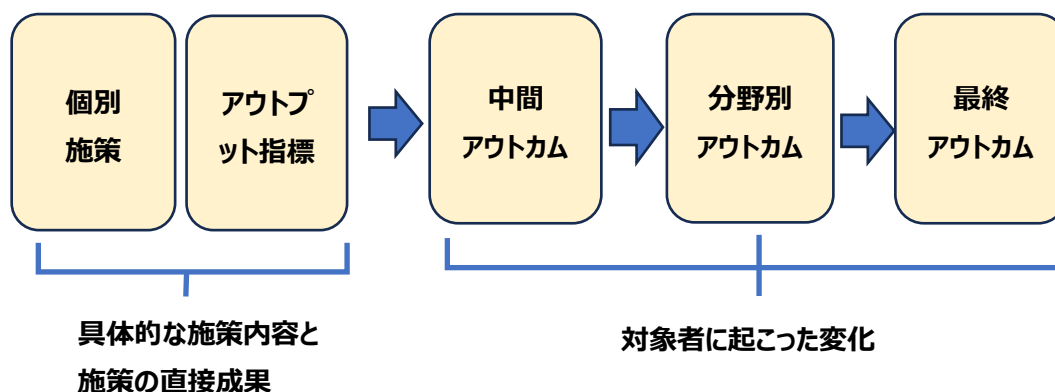
がん細胞と正常な細胞の大きな違いは、正常細胞は必要に応じて増殖し、不要になると増殖をやめるのに対し、がん細胞はどんどん勝手に増殖していくことです。異常な細胞が大量に増殖すること、本来あるべきではない場所に増殖すること、増殖した細胞が体に必要な細胞や組織を壊して体に害を及ぼすことなどで、がん細胞は生命を脅かします。

同じように増殖をしていく細胞でも、浸潤や転移による増殖をせず、正常組織の栄養を奪ったりしないタイプもあります。これは良性の腫瘍と呼ばれ、悪性腫瘍であるがんと区別されます。良性腫瘍の代表的なものは、子宮筋腫や卵巣嚢腫です。

ロジックモデル

計画の進捗にあたっては、施策自体の直接的な成果と、それによって生じる効果について関係性を整理したうえで、施策が適切であるかを評価することが重要です。そのため、本計画においては、国や東京都の計画にならない、ロジックモデルの考え方を踏まえた指標設定を行うこととします。

ロジックモデルとは、施策が目標とする成果を達成するに至るまでの論理的な関係を体系的に図式化したもので、行政の活動と最終成果が論理的に結びついているかどうかについて、より可視化して評価できるようになるとされています。



加熱式たばこと電子たばこ

「加熱式たばこ」は、専用の道具を使って、たばこの葉やその加工品を電気で加熱し、発生する煙（エアロゾル）を喫煙するものです。

加熱式たばこの煙には、ニコチンや発がん性物質などの有害な物質が含まれています。加熱式たばこのパッケージの注意文言（健康警告）にも「加熱式たばこの煙（蒸気）は、発がん性物質や、依存性のあるニコチンが含まれるなど、あなたの健康への悪影響が否定できません。」「加熱式たばこの煙（蒸気）は、周りの人の健康への悪影響が否定できません。健康増進法で禁じられている場所では喫煙できません。」と書かれています。

日本では、加熱式たばこを使用している人も、要件を満たせば保険診療で禁煙治療を受けることができます。

一方で、たばこの葉を使用せず、香料などを含む溶液を電気的に加熱し、発生させたエアロゾル（蒸気）を吸入する製品を「電子たばこ」と言います。日本ではニコチンを含むものは現在販売されていないため法律上の規制がなく、未成年に喫煙習慣が広がる危険性があります。また、ニコチンの有無にかかわらず、電子たばこによっては、健康に影響を及ぼす可能性のあるホルムアルデヒド、アセトアルデヒドといった発がん性物質などを発生するものと報告されています。因果関係の有無を推定する科学的根拠はまだ不十分ですが、使用者本人にも周囲にも健康影響が生じうると考えられています。

改正健康増進法と東京都受動喫煙防止条例

令和2年4月1日に「健康増進法の一部を改正する法律」及び「東京都受動喫煙防止条例」が全面施行されました。望まない受動喫煙の防止を図るため、多数の者が利用する施設等の類型に応じ、その利用者に対して、一定の場所を除き喫煙を禁止するとともに、当該施設の管理について権限を有する者が講ずべき措置を定めました。これにより、飲食店を含む多くの人々が利用する様々な施設において、原則屋内禁煙となり、喫煙を可能にするには喫煙室の設置等の対応が必要となっています。加えて、その運用に関しても様々なルールの遵守が必要となり、違反者には罰則が課せられることがあります。

＜都条例による追加事項＞

- ①小・中・高校、保育所・幼稚園について、国の法律が「敷地内禁煙（屋外に喫煙場所設置可）」となっているのに対して、都の条例は「敷地内禁煙（屋外に喫煙場所設置不可）」とする上乗せ規制を設けている（もっとも、上乗せ部分に罰則はなく、努力義務を上乗せする）。
- ②また、国の法律が、既存飲食店について大幅な例外を設けているのに対して、都の条例は従業員を使用していれば、「原則屋内禁煙（喫煙専用室内でのみ喫煙可）」とする横出し規制を設けている。
- ③飲食店においては、喫煙の可否を店頭に表示する義務が課される。

飲酒はほどほどに…

飲む場合は純エタノール量換算で1日あたり約23g程度までとし、飲まない人、飲めない人は無理に飲まないようにしましょう。1日あたりの平均アルコール摂取量が純エタノール量で23g未満の人に比べ、46g以上の場合で40%程度、69g以上で60%程度、がんになるリスクが高くなることが日本人男性を対象とした研究でわかりました。この結果から、日本人男性のがんの13%程度が1日2合以上の飲酒習慣によりもたらされているものと推計されます。女性では男性ほどはっきりしないものの、女性のほうが男性よりも体質的に飲酒の影響を受けやすく、より少ない量でがんになるリスクが高くなるという報告もあります。



食生活を見直す

<減塩する>

いくら、塩辛などの塩分濃度の高い食べ物をとる人は、男女ともに胃がんのリスクが高いという結果も報告されています。塩分を抑えること、すなわち減塩は、胃がんの予防のみならず、高血圧、循環器疾患のリスクの低下にもつながります。

日本人の食事摂取基準（厚生労働省策定「日本人の食事摂取基準 2020 年版」）では、1 日あたりの食塩摂取量を男性は 7.5 g 未満、女性は 6.5 g 未満にすることを推奨しています。塩蔵食品、食塩の摂取は最小限にするよう心がけましょう

<野菜と果物をとる>

食道がんについては、野菜と果物をとることで、がんのリスクが低くなることが期待されます。また、胃がんおよび肺がんも、リスクが低くなる可能性があります。食道がんは喫煙・飲酒との関連が強いことがわかっていますので、禁煙と節酒を心がけることがまず重要となります。野菜と果物をとることは、脳卒中や心筋梗塞をはじめとする生活習慣病の予防にもつながるので、できるだけ意識的にとり、不足しないようにしましょう。

厚生労働省策定「健康日本 21」では、野菜を 1 日に 350g 以上とることを目標としています。果物も合わせた目安としては、野菜を小鉢で 5 皿、果物を 1 皿食べることで、おおよそ 400g が摂取できます。



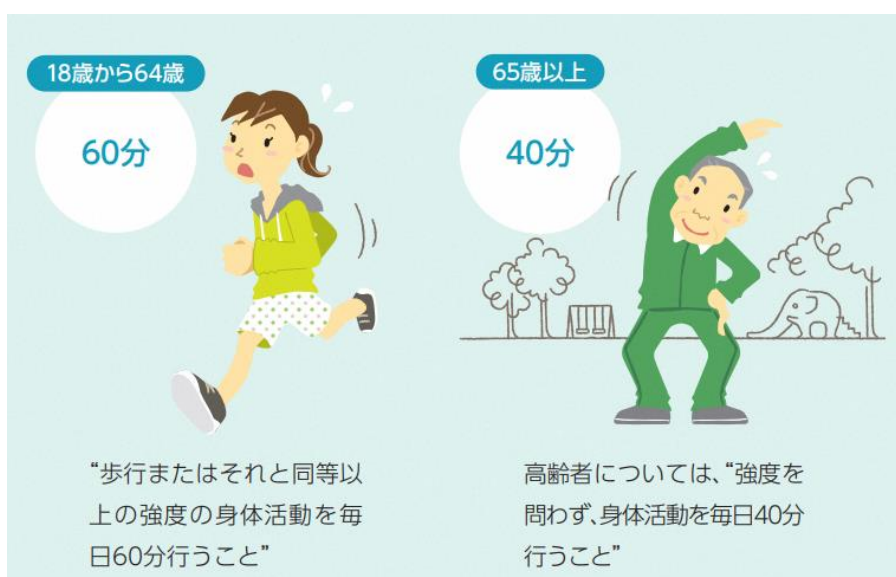
身体を動かす

仕事や運動などで、身体活動量が高い人ほど、がん全体の発生リスクが低くなるという報告があります。

身体活動量が高い人では、がんだけでなく心疾患のリスクも低くなることから、普段の生活の中で無理のない範囲で身体を動かす時間を増やしていくことが、健康につながると考えられます。

どれくらいからだを動かせばいいのか

がんの予防のために、ものすごく運動しないといけないわけではありません。厚生労働省は、「健康づくりのための身体活動基準 2013」の中で、18 歳から 64 歳の人の身体活動について、“歩行またはそれと同等以上の強度の身体活動を毎日 60 分行うこと”、それに加え、“息がはずみ、汗をかく程度の運動を毎週 60 分程度行うこと”を推奨しています。同様に、65 歳以上の高齢者については、“強度を問わず、身体活動を毎日 40 分行うこと”を推奨しています。また、すべての世代に共通で、“現在の身体活動量を少しでも増やすこと”、“運動習慣を持つようにすること”が推奨されています。



新たなプロセス指標の基準値

プロセス指標とは、がん検診が効果（死亡率減少）につながるよう適切に行われているか、各プロセスに分けて評価し、達成度を見るものです。令和 5 年（2023 年）6 月に、厚生労働省の「がん検診のあり方に関する検討会」にて、基準値の改正が示されました。この改正では、これまでの「許容値」や「目標値」は廃止され、目指すべき感度、特異度の値を達成するために必要と考えられる値を基準値としています。

また、精検受診率の基準値は全てのがん検診において 90%となり、未把握率、未受診率の基準値も廃止されたほか、要精検率・がん発見率・陽性反応適中度の基準値が細分化され、性別及び受診歴別に示されています。

このほか、基準値の対象年齢は、従来の上限 74 歳に加え、上限 69 歳の区分が追加されました。

今後、墨田区では、以上の新たに示された基準値に基づき、がん検診事業の評価を行っていくこととします。

	胃がん		大腸がん	肺がん		乳がん		子宮頸がん		
	① 50-69 歳 (2 年間隔)	② 50-69 歳 (1 年間隔)	40-69 歳	① 40-69 歳 (検診以外 の受診なし)	② 40-69 歳 (検診以外 の受診を考 慮)	① 40-69 歳 (すべての受 診者の検診 間隔が 2 年)	② 40-69 歳 (連続受診 者がいるこ とを考慮)	20-69 歳	20-39 歳	40-69 歳
精検受診率	90%以上		90%以上	90%以上		90%以上		90%以上		
要精検率	7.1%以下	7.0%以下	6.2%以下	2.0%以下	2.0%以下	6.8%以下	6.8%以下	2.7%以下	4.2%以下	2.0%以下
がん発見率	0.13%以上	0.08%以上	0.16%以上	0.06%以上	0.03%以上	0.38%以上	0.29%以上	0.16%以上	0.18%以上	0.15%以上
陽性反応適中度	1.9%以上	1.1%以上	2.6%以上	3.0%以上	1.6%以上	5.5%以上	4.3%以上	5.9%以上	4.4%以上	7.4%以上

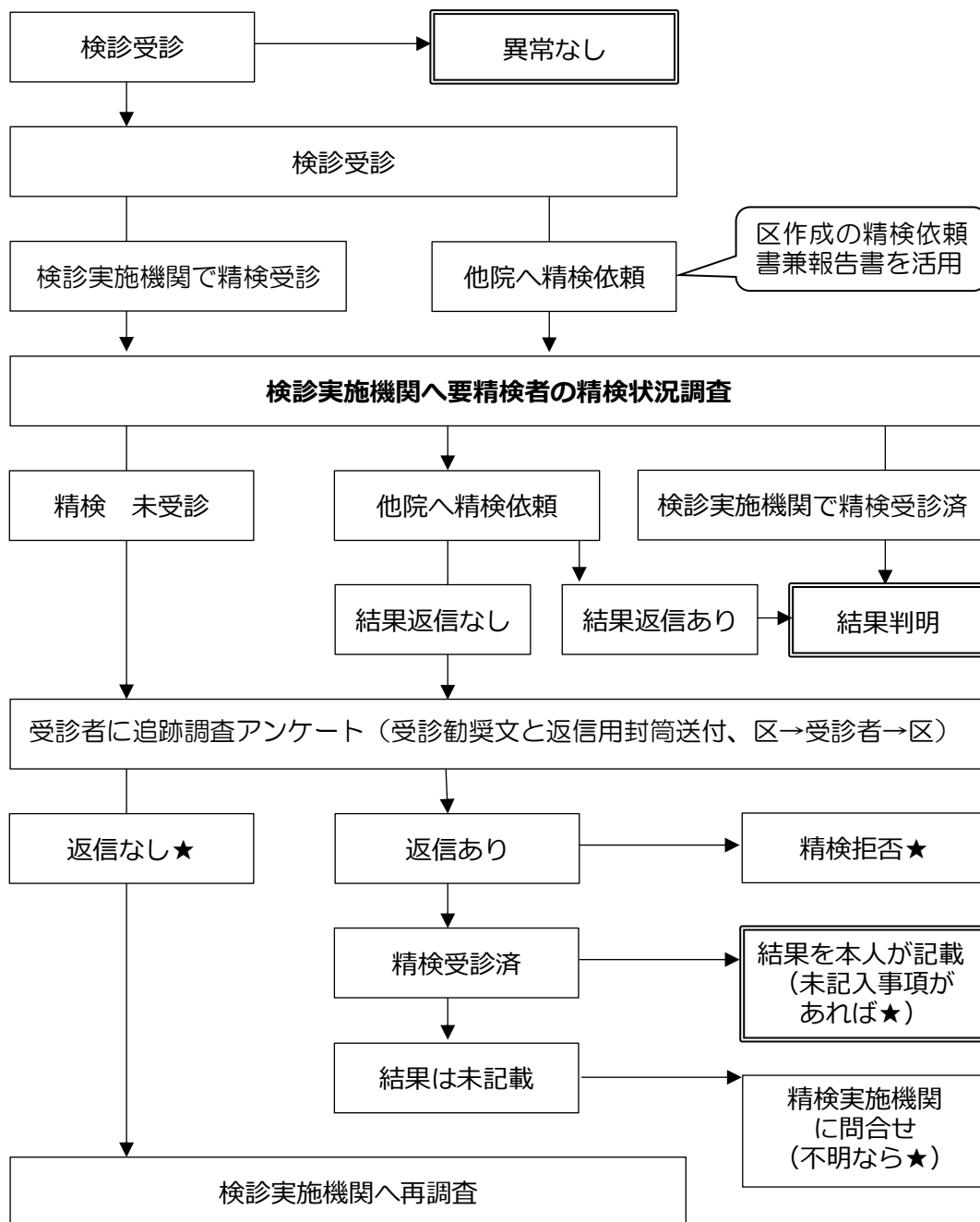
	胃がん		大腸がん	肺がん		乳がん		子宮頸がん		
	① 50-69 歳 (2 年間隔)	② 50-69 歳 (1 年間隔)	40-69 歳	① 40-69 歳 (検診以外 の受診なし)	② 40-69 歳 (検診以外 の受診を考 慮)	① 40-69 歳 (すべての受 診者の検診 間隔が 2 年)	② 40-69 歳 (連続受診 者がいるこ とを考慮)	20-69 歳	20-39 歳	40-69 歳
精検受診率	90%以上		90%以上	90%以上		90%以上		90%以上		
要精検率	7.7%以下	7.6%以下	6.8%以下	2.4%以下	2.3%以下	6.5%以下	6.4%以下	2.5%以下	4.2%以下	1.9%以下
がん発見率	0.19%以上	0.11%以上	0.21%以上	0.10%以上	0.05%以上	0.40%以上	0.31%以上	0.15%以上	0.18%以上	0.14%以上
陽性反応適中度	2.5%以上	1.5%以上	3.0%以上	4.1%以上	2.2%以上	6.1%以上	4.8%以上	5.9%以上	4.4%以上	7.3%以上

出典：プロセス指標評価基準の変更について 東京都保健医療局

がん検診精密検査受診率向上の取組み

がん検診を受診した結果、精密検査が必要と判定された方については、精密検査の受診につなげることが、がんの早期発見や早期治療に大変重要になります。区では以下のとおり、検診実施機関に対する精検状況調査のほか、受診者本人へのアンケート調査や電話勧奨を実施し、精密検査の受診に着実につなげ、精密検査受診率の向上に取り組んでいます。

図表 がん検診 精密検査結果把握の流れ



★にはコールセンターの専門職による電話勧奨を実施

出典：墨田区健康推進課

ナッジ理論の活用

がん検診については、がんに関する区民意識調査の結果をみると、多くの区民が「検診受診による早期発見・早期治療は重要」、「自覚症状がなくても、検診は必要」等の認識を持っていることが分かります。しかし、墨田区のがん検診受診率は、あまり高くはないのが現状です。つまり、受けたほうがよいことはわかっている、何らかの心理的バイアスによって、実際に受診しない方が多数いることがわかります。この心理的バイアスに着目したアプローチで行動変容を促すのが、ナッジ理論です。

ナッジ (nudge) とは「そっと後押しする」という意味の英語で、選択の余地を残しながらもより良い方向に誘導する、または最適な選択ができない人だけをより良い方向に導く行動経済学に基づく理論です。2017 年にシカゴ大学のリチャード・セイラー教授がノーベル経済学賞を受賞したことを皮切りに実社会の様々なシーンで利用されるこの理論は、予算をかけずにがん検診の受診率向上に取り組むことができるとあって、受診勧奨等に取り入れている自治体が増加しています。

例えば、墨田区では、人は直感的に意思決定を負担と感じるものという心理を利用し、申込の選択肢に「自分が受診できるがん検診」を加えることにより、複数種類の申込みを促す電子申請フォームとしました。また、無料のがん検診については、「通常 1 万円以上かかる検診が今なら無料」というアナウンスで「お得感」を前面に出し、受診につなげることもナッジを活用した取組みの 1 つです。

ほかにも、がん検診において、ナッジ理論を活用した好事例が多く報告されていることから、少しでも多くの区民にがん検診を受診してもらえよう、積極的に受診勧奨に取り入れ、行動変容を促していきます。

がん検診事業の安定的運営

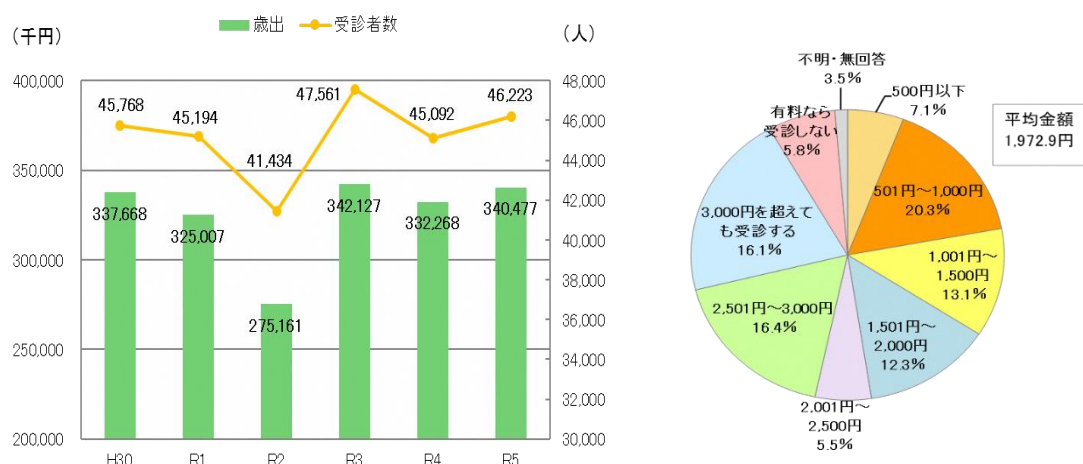
墨田区では、「墨田区行財政改革実施計画」を定め、持続可能な財政基盤の確立のため、受益者負担の一層の適正化を図ることとしています。

一方、区のがん検診事業においては、令和元年度に導入した胃がん検診の胃内視鏡検査を除くと、各がん検診が導入された当初から、受診者の自己負担額の見直しは図っていません。

検診種別		自己負担額	備考
胃がん検診	胃部エックス線検査	無料	
	胃内視鏡検査	1,500 円	生活保護受給者等は減免
大腸がん検診		400 円	
肺がん検診		無料	
子宮頸がん検診		無料	
乳がん検診		無料	

区民のがんによる死亡者減少を目的とした精度管理や受診率の向上施策の推進に伴い、全がん検診の延べ受診者は4万人を超え、事業費は3億円を超えています。今後、さらなる精度管理や受診率向上策に取り組むためには、がん検診の総事業費においてもさらなる増加が見込まれます。

がん検診を受診してもよいと考える上限金額を調査したところ、平均金額は1,900円を超えています。墨田区のがん検診受診に対する負担について、一定の理解を得られていることが分かりました。



がん検診の受診率向上策や適切な精度管理体制の推進等の成果を踏まえた上で、がん検診事業を安定的に運営していくため、検診費の算定根拠となる診療報酬の改定や他自治体の状況、社会情勢等を勘案し、適宜、自己負担額や割合等を検討していきます。また、適切な受益者負担を念頭に、区民の健康に対する意識を醸成するために適正な負担について検討していきます。

がん治療における口腔ケアについて

がん患者にとって、がんの治療を行う上で、口腔ケアも重要です。特に、化学療法を行っているがん患者は、治療の副作用により、口の中の痛みや炎症などがあると、食べるのも話すのもおっくうとなり、活発に日常生活を送ることが難しくなってしまいます。そのために、しっかりとした口腔ケアを行い、口腔内を清潔に保つことが必要です。

口の中には、多いところで、500 種類、100 億の細菌がいるといわれています。がん治療で免疫が下がると、その数が増え、口の中は、化学療法を受けるとさらに増え、口の中が痛むことがあります。化学療法が続くと、食べられなくなり、体力が低下して全身の健康に悪影響を及ぼします。

調整中

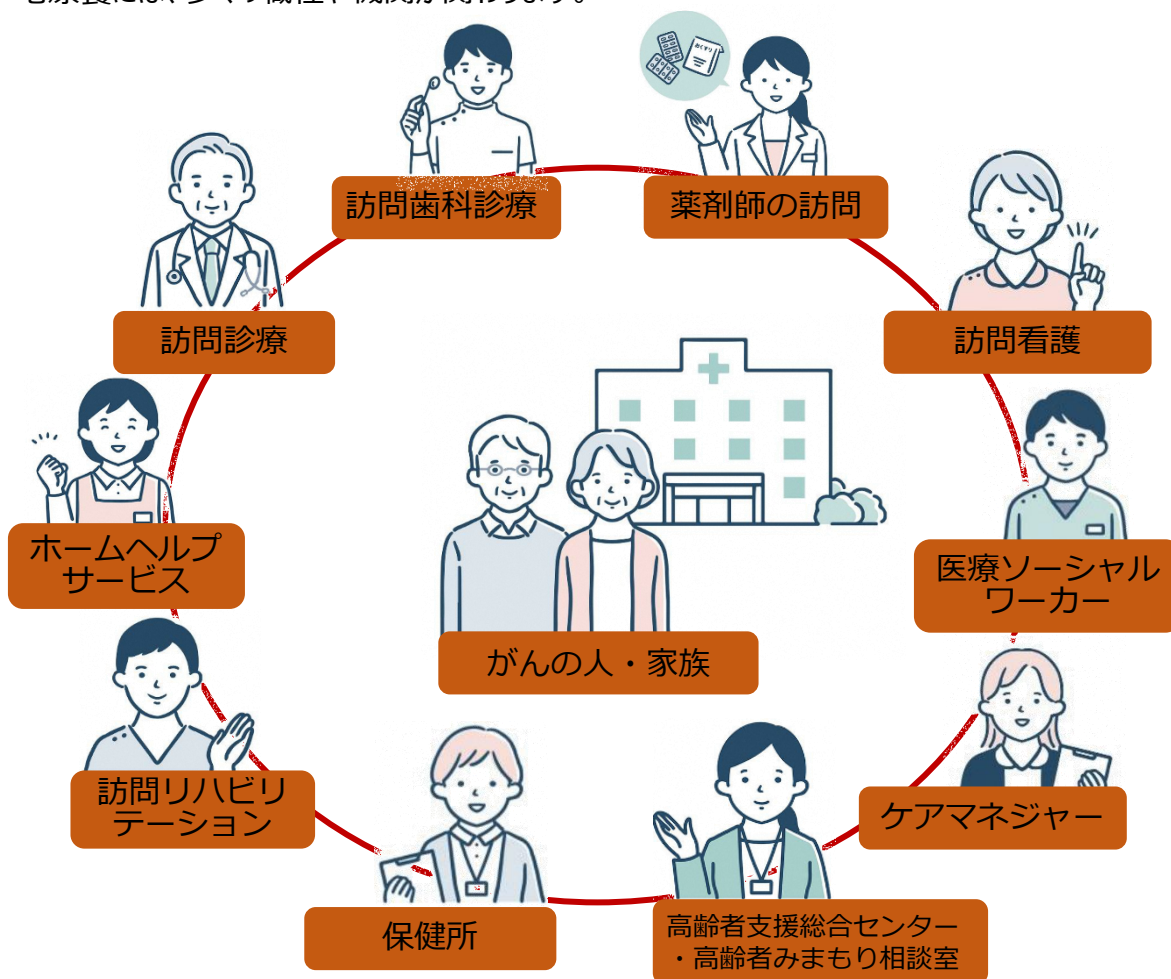
また、周術期（手術前から術後）の口腔機能管理も大切です。手術を行う際、全身麻酔をするときに歯を守る準備をしたり、手術後の食事の開始をスムーズにしたりすることで、全身状態の回復を図れます。

さらに、口の中を清潔にすることで傷口からの感染リスクを減少することもできます。歯科医師が専門的な口腔ケアを行い、口の中の細菌の数を減らしてからがん治療をすることによって、その効果にも期待が持てるといわれています。

がんの医療体制と在宅療養を支えるネットワーク

がん医療提供体制の中核を担うのは、地域のがん診療連携拠点病院です。墨田区を含む区東部二次保健医療圏の地域がん診療連携拠点病院は、東京都立墨東病院、聖路加国際病院となっています。また、東京都では、東京都がん診療連携拠点病院と東京都がん診療連携協力病院を認定しています。こうした病院のほか、墨田区では緩和ケア病棟を持つ医療機関があるほか、地域の病院・診療所が連携し、墨田区のがん医療提供体制を作っています。

また、自宅で日常生活を送りながら、医療や介護を受け在宅療養を行うこともできます。在宅療養には、多くの職種や機関が関わります。

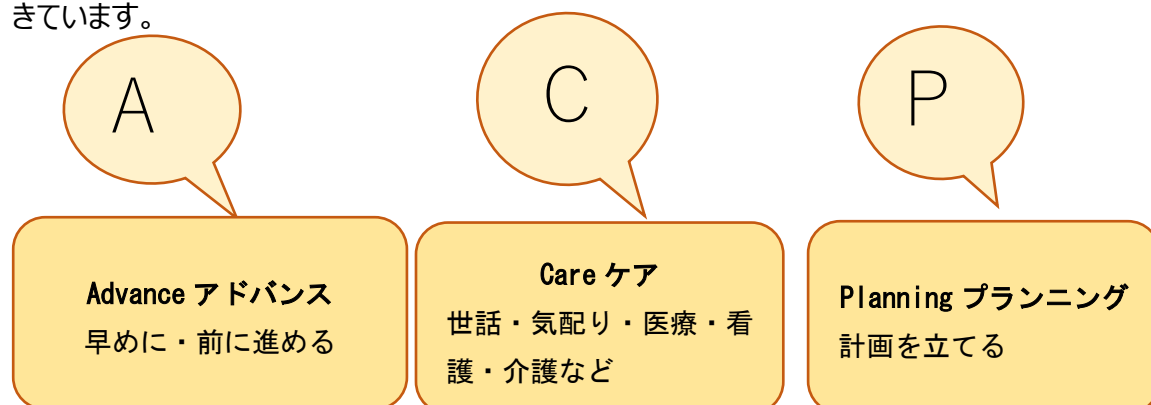


家族が高齢である場合や、子育て中、ひとり暮らしであるなど、状況は人によって様々ですが、自分の望む場所で自分にあった療養ができるよう、主治医やかかっている病院の医療ソーシャルワーカー、がん相談支援センター等に相談しながら、病状や意向、状況に沿って多くの機関が支援に関わっていくことが重要です。

また、元気なうちから、地域の中で医師や歯科、薬局の「かかりつけ」を持っていると、何かあったときに相談でき心強い存在となります。

ACP（人生会議）について

自らが希望する医療やケアを受けるために、大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むかを、自分自身で前もって考え、家族や大切な人、医療・介護ケアチームなど、周囲の信頼できる人と話し合っておく『ACP（人生会議）』の考え方が広がってきています。



改まった場で話すだけではなく、世間話や日常の暮らしのなかで、自分が大切にしていることを考えたり、周囲の人に伝えておいたりすることができます。また、年齢や状況の変化に応じて気持ちも移り変わっていきます。変化に沿って繰り返し周囲の人に希望を伝え、話し合いを重ねていくことが大切です。そうした話し合うプロセスを通じて、周囲の人と思いや考えを共有することを大切にしている点が、ACP（人生会議）の特徴です。

仕事とがん治療の両立について

がんは高齢者に多い病気ですが、がん患者の約3人に1人は15歳から64歳以下の世代であり、就労している人も多くがんになり患っています。また、医療の進歩によって、がんは治る、もしくはかなり長期にわたる安定状態が期待できる病気となっており、がん治療と仕事を両立する場面が増加しています。その反面、がんと診断されたショックから、もう働けないと感じて退職してしまうこともあります。企業にとっても、がん治療と仕事の両立を可能とすることで、貴重な人材を失うことを防ぎ、また、人を大切にする企業として採用時や社員の定着にも良い影響を与えます。

治療と仕事の両立のためには、柔軟な働き方の選択ができることや産業医との連携、公的な制度、相談窓口の周知など多岐にわたり、働く人の意識の変革や職場の理解の醸成も非常に重要となります。

主な治療と仕事の両立支援のため必要なこと

早期発見・早期治療

- ・がん検診の勧奨
- ・要精密検査の場合の早期の受診

働く人の意識変革

- ・がん＝死や働けないというイメージの転換
- ・診断後直ぐの離職の防止

職場の体制や理解・風土の醸成

- ・柔軟な働き方の選択
- ・体調や希望に合った配置、仕事内容の検討
- ・個人情報取り扱いの徹底
- ・がんに対する正しい理解の促進

相談先の活用

- ・がん相談支援センター、産業保健総合支援センター、産業医等への相談

制度の理解

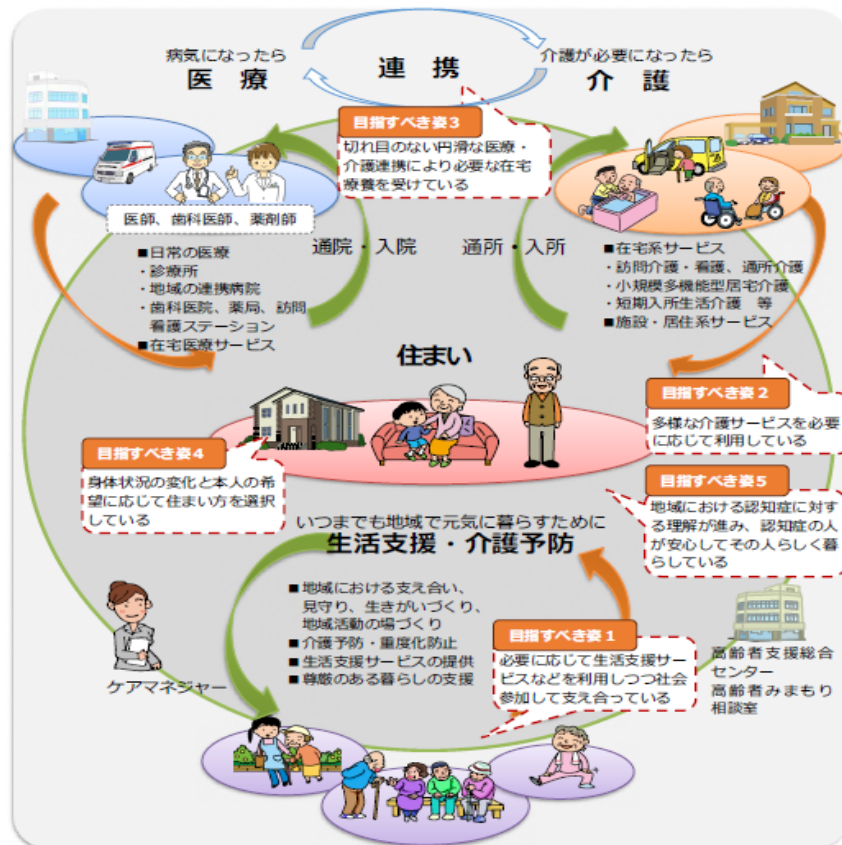
- ・就業規則等による利用できる制度の確認
- ・高額療養費等公的な制度の理解促進

地域包括ケアシステム・地域共生社会の中での、がんの支援について

墨田区高齢者福祉総合計画・第9期介護保険事業計画では、「人と人がつながり、高齢者が住み慣れた地域で、自分らしく生きがいを持って生活することができるまち」を基本理念とし、安定した住まいのもと、地域における支え合いや自主グループ活動等による生活支援・介護予防と、切れ目のない円滑な医療・介護連携により必要な在宅療養に関わる支援を受けられる体制づくりに向けた各施策等を行い、地域包括ケアシステムの充実を進めています。高齢期のがん患者の在宅療養を考える上では、こうした取組のなかで、希望や体調等に合わせた地域の活動等への参加や、必要な医療・介護に関わる支援を受けられるよう、関係する区の担当課や関係機関との連携を進めていくことが重要となります。

また、「地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律」が2020年（令和2年）に改正され、支援に関わる制度・分野の枠を超えた包括的な支援体制の構築や「支える側」「支えられる側」という区別なく支え合うことができる地域づくりを目指した地域共生社会の実現が謳われています。がん治療と子育てや家族の介護を両立している場合や、障害がありがんになり患っている場合など、複数の支援ニーズを持つこともあり、連携の輪を広げていくことが求められます。

■墨田区の地域包括ケアシステムの姿（イメージ図）
各機関が連携・協働し、住民が互いに支え合いながら、高齢者が自分らしく地域で暮らし続けることができる地域包括ケアシステムを構築します。



ブレスト・アウェアネスとは

ブレスト・アウェアネスとは、乳房を意識する生活習慣のことです。

検診対象年齢である40歳になる前から、日頃から、自分の乳房の状態を知り、変化がないかチェックし、気になる変化に気づいたときには、すぐに乳腺外来のある医療機関を受診することで、乳がんの早期発見・早期治療につなげることができます。

また、この習慣を続けることで、検診で見つけにくい高濃度乳房の乳がんの早期発見や、定期的に受診していても進行が早く急速に大きくなる乳がん（中間期がん）の早期診断・治療につなげることもできます。

<ブレスト・アウェアネスの4つのポイント>

1. 自分の乳房の状態を知る

日頃から「自分の乳房の状態を知る」ことがブレスト・アウェアネスの第一歩です。入浴やシャワーの時、着替えの時、ちょっとした機会に自分の乳房を見て、触って、感じてみましょう。入浴の際に、石鹸を付けて撫で洗うのもいいでしょう。

2. 乳房の変化に気をつける

普段の自分の乳房の状態を知ること、初めて、変化に気が付きます。しこりを探す（自己触診）という行為や意識は必要ありません。「いつもと変わりがないかな」という気持ちで取り組みましょう。

3. 変化に気づいたらすぐ医師に相談する

しこりや引きつれなどの変化に気付いたら、次の検診を待つことなく病院やクリニックなどの医療機関を受診しましょう。大丈夫だろうと安易に自己判断することなく専門医の診察を受けましょう。

4. 40歳になったら2年に1回乳がん検診を受ける

乳がん検診の目的は、乳がんでなくなる女性を減らすことです。40歳以上の女性は、2年に1回、定期的に検診を受けましょう。また、「異常あり」という結果を受け取った場合には必ず精密検査を受けるようにしましょう。

墨田区版健康経営事業

健康経営とは、従業員の健康増進にかかる取組をコストとしてではなく、収益性等を高める前向きな投資ととらえて戦略的に実践する新しい経営手法のことです。

墨田区では「ACTION!すみだ SDGs」の取組として、区内企業が行う従業員の健康づくりを応援する「すみだ健康経営支援事業」を実施しています。この事業は、「すみだ健康チャレンジ宣言制度」と「すみだ健康経営顕彰制度」から成ります。

まず、「すみだ健康チャレンジ宣言」をすると、区と連携している「健康経営サポーター」からお得な支援を受けながら健康経営の取り組みを進めることができます。

令和6年11月現在、このチャレンジ宣言をしている事業所は20社になっています。さらに、チャレンジ宣言をした企業は、墨田区独自の顕彰制度「すみだ健康経営顕彰制度」に応募することができます。すみだ健康経営顕彰制度は、墨田区内で優良な健康経営に取り組む事業所を「見える化」することで、従業員や求職者、関係企業などから、「従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる企業」として社会的な評価を得ることができる制度です。

今後、こうした取組にがん対策の視点を取り入れることにより、区内事業所へのがん対策を積極的に推進していきます。

がん登録について

がん登録とは

がん登録は、がん診療や研究のために患者さんのデータを収集・共通のルールに基づいて管理する仕組みであり、「院内がん登録」と「全国がん登録」という2つの制度に分かれます。

「院内がん登録」は、全国のがん診療連携拠点病院*や指定された病院で行われています。登録されるデータには、がんの部位や進行の程度、診断や治療の方法とその結果など、99項目が含まれています。

「全国がん登録」は、日本全国でがんと診断されたすべての人のデータを一元的に集計・管理する制度です。診断を受けた医療機関によらず、国のデータベースで情報が一元管理されます。このようにすることで、全国規模のデータ分析が可能になり、がん診療や研究に役立てることができます。

プライバシーの保護

現在は、氏名、生年月日、住所などの個人情報、同一人物かの判断や治療後の経過調査に利用されています。しかし、患者さんのプライバシーや権利の侵害を防ぐため、「がん登録等の推進に関する法律」では個人情報の保護や管理、罰則規定が厳格に定められています。これにより、がん登録データベースに登録されたデータは匿名化され、公表時には個人が特定されることはありません。

がん登録で何ができるか

ここでは、がん登録によって可能になる2つのポイントについて解説します。

まず、がん登録によって可能になる1つ目のポイントは、治療成績のデータ分析です。大量のデータを集めることで、様々な治療方法や薬の効果を客観的に評価することができます。例えば、ある治療方法が他の方法よりも生存率や再発率を改善することが明らかになった場合、その治療方法を選ぶことで患者さんの治療成績が向上する可能性があります。つまり、がん登録によって、より精度の高い治療が実現されることが期待できます。

2つ目のポイントは、政策立案です。例えば登録されたデータは、地域のがんの発生率や検診の効果を、別の地域や全国平均と比較し、地域ごとの課題抽出や最適ながん対策を立案するために活用できます。また、具体的な数値や事例をもとにした普及啓発によって、人々ががんに対する意識を高め、早期診断や予防の重要性を理解することが期待されます。政策立案には、信頼性の高いデータが欠かせませんが、がん登録によって集められるデータはその役割を果たすことができます。

以上のように、がん登録によって、より効果的な治療法を選択し、がん対策を進めることができます。がん登録は、患者さんの生活や将来にとって大きな意味を持つ取組であり、がん診療やより広い意味でのがん対策の進歩に貢献しています。ところが、がんの早期発見や早期治療に大変重要になります。区では、以下のとおり、検診実施機関に対する精検状況調査のほか、受診者本人へのアンケート調査や電話勧奨を実施し、精密検査の受診に着実につなげ、精密検査受診率の向上に取り組んでいます。

がん検診の感度・特異度

がん検診のプロセス指標には、感度・特異度という指標があります。感度とは、がんのある者を「陽性（精密検査必要）」と正しく判定した割合、特異度とは、がんのない者を「陰性（精密検査不要）」と正しく判定した割合のことです。感度・特異度を評価するためには、都道府県が管理するがん登録情報を活用し、検診で「陰性（精密検査不要）」と判定した方ががんの有無を把握する必要があります。

今後は、感度と特異度を活用し、各自治体のがん検診事業の評価・分析をしていくこととなります。

